

見どころ

堂社

今、目にする慈恩寺の堂社は、江戸時代に再建されたものです。特に本堂境内は江戸時代のたたずまいをよく伝えており、圧巻です。
※ここでは、仏堂と神社の意味から「堂社」としています。



仏像群

慈恩寺には、平安時代から鎌倉時代にかけて作られた傑作の仏像が多数伝えられており、当時の京や奈良で作られた像も数多くあります。中でも、躍動感あふれる木造十二神将立像(国重文)は注目です。これまでに、東京国立博物館とイタリア・ローマに4体ずつ、アメリカに2体が出張展示されました。



舞楽

慈恩寺の舞楽は、四天王寺(大阪)の楽人・林越前政照が伝えたといえます。記録から500年以上の歴史があることがわかっています。現在も5月5日の一切経会で8番が披露され、そのうち2番は慈恩寺の地元住民が舞います。



国史跡 慈恩寺旧境内

「史跡」とは？

史跡とは、文化財保護法によれば「貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡で我が国にとって歴史上又は学術上価値の高いもの」とあります。

「慈恩寺旧境内」とは？

平成26(2014)年10月、日本の仏教信仰をたどる上で重要であると評価され、旧境内地のうち一部が「慈恩寺旧境内」として国の史跡に指定されました。その本質的な価値は次の5つです。

- ①永正の兵乱を超えて復興した堂社
- ②本堂を取り巻く院坊屋敷地
- ③背後を取り巻く城館群
- ④境内の北端に位置する修験行場跡
- ⑤結界を示す社

「慈恩寺旧境内」は、江戸時代まで認識されていた丘陵一帯に広がる境内地です。丘陵南端に、そのたたずまいを良好にとどめる堂社や院坊屋敷地を核として、いにしえから連綿と続く慈恩寺の活動の痕跡が色濃く残されています。

「慈恩寺旧境内」は、土地に刻まれた仏教の姿とも言えるでしょう。



慈恩寺を知る 3つのキーワード

広大な 境内地

江戸時代の慈恩寺には、本堂や三重塔があるエリア、院坊屋敷地が建ち並ぶエリア、修験道の修行場や山野のエリアがありました。当時の絵図によれば、境内全体の規模は東西約1km、南北約5kmにわたるとあります。

さらに、境内の外に広がる寺領は江戸時代18ヶ村・2812石にも及び東北一の寺領でした。

一山寺院

慈恩寺は、本堂を中心にたくさんのお堂が建ち並び、院や坊とよばれる僧侶の住まいが取り囲んでいます。江戸時代の慈恩寺は、3ヶ院48坊で構成される巨大な組織でした。



法会の寺

葬儀を行う一般的な寺とは違い、慈恩寺は法会、つまり仏教行事を行う祈りの寺です。慈恩寺の僧侶たちは法会を通して国や領主の安泰や平和、人々の幸福や作物の豊作を祈ってきました。



赤：国史跡の範囲
黄：江戸時代の慈恩寺境内

国史跡 慈恩寺旧境内

